「地域ビジネス　起業の教科書
～地域で働きたい人がはじめに読む本～」

著者：アミタ持続可能経済研究所
出版：株式会社幻冬舎メディアコンサルティング
発行：2010年3月24日



世界経済はグローバル化し、マーケットに国境は無くなったといえる。ＴＰＰ加盟の方針を政府が発表し、自由化されたマーケットの中でチャンスが訪れるとともに価格競争力に劣る産業にとっては過酷な時代が到来する。「地域ビジネス　起業の教科書」はそのような時代の中で日本の課題の一つである地方の再生につながる地域ビジネス（コミュニティービジネス）の起業について、豊富な事例を交えながら現状の課題と今後の可能性及び起業のアイデアを生み出す方程式の提案がなされている。テーマは都会で培ったビジネスのノウハウを地方で生かすこと。５つのSTEPから構成されている。

STEP１では地方と都会の現実について解説している。都会にはさまざまなビジネスを通じて育った人材や培ったノウハウがある。また環境意識の高まりが地方における就労意欲の高まりに繋がっている。地方では限界集落など深刻な危機感をもった地域が存在し故郷をなんとか再生したいと考えている人々が存在し、一過性ではない持続可能な地域ビジネスが求められている。STEP２では、農林漁業以外の地域ビジネスの可能性と都会の人が持つどんな知識やスキルが地域ビジネスで生かせるのかを考察している。STEP３では「地域ビジネス実践編」として地方と都会にあるものやないもの、地方と都会のそれぞれが抱える課題を組合わせて新しい地域ビジネスを生み出すための７つの方程式が提案されている。例えば、地方における「子供の減少」という課題と都会における「保育所不足」という課題を組合わせて考えた「地方で都会の子供の子育てや教育を行う」というコンセプトによって、「夏冬に冒険学校」など、いくつかの具体的なビジネス案が提案されている。STEP４では地域ビジネスを実現させるために必要なポイン

トを５つ解説している。STEP５では地域ビジネスを始めたい人と地域とをつなぐコーディネート組織を紹介している。

グローバル化することで世界は繋がっていく。それは富の連鎖を生むと同時に負の連鎖も生む、欧米の金融不安はまさに世界中に負の連鎖を生んでいる。そのような中で日本のあるべき姿の一つが、循環型で自立した地方の再生であると思われる。この書籍は国内の地方に存在する自然、文化、人的資源を生かす商品・サービスを開発しマーケットを創造できる可能性と方法を提案している。

追記　先日、著者であるアミタ持続可能経済研究所の京都オフィスを訪れお話しを聞かせて頂きました。京町家を改装して作られたオフィスにて地域ビジネスの可能性と滋賀県高島市における農家の安心、消費者の安心、生き物の安心を確立するプロジェクトについて熱いお話しを聞かせて頂き深く感銘を受けました。

京都府立京都すばる高等学校
企画科学科長　貴島良介